

Race Report

文部科学大臣杯 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ第1戦

MFJ グランプリスーパーバイクレース in もてぎ JSB1000 クラス

会場: 栃木県 ツインリンクもてぎ 国際レーシングコース

日時: 4月2日(金) 晴れ

公式練習

4月3日(土) 晴れ

予選(40分)、決勝レース1 (23周)

4月4日(日) 曇り時々雨

決勝レース2 (23周)

観客数: 13,000 人(大会期間中)

ライダー 東村 伊佐三 ゼッケン#28 マシン BMW S1000RR

結果

予選 DRY 18 台中 15 位(1 分 53 秒 117)

レース1 DRY 17 台中 13 位(年間シリーズポイント 3 ポイント獲得)

レース2 DRY 17 台中 12 位(年間シリーズポイント 4 ポイント獲得) 20 周目に赤旗終了

・レースレポート

いつも Team 長野にご支援、ご声援をいただきまして、誠にありがとうございます。

全日本ロードレース選手権第1戦が 4 月 3 日(土)~4 月 4 日(日)に栃木県 ツインリンクもてぎで開催され開幕しました。昨シーズンは、新型コロナウイルス感染症の影響により全日本選手権も中止や延期が相次ぎましたが、今シーズンは感染症対策を入念に実施した中で予定とおり開催されました。今シーズンより、全日本選手権へ年間エントリーを行い Team 長野としては初参戦となるツインリンクもてぎ大会でした。初参戦サーキットということ、東村選手も約 8 年ぶりとなるもてぎでのレースということで試行錯誤が多く、手探り状態ではありましたが、サポート企業様、関係各所の皆様のお力添えをいただきまして、事前テストから精力的にセットアップを進め少しずつ良い方向に向かうことが出来ました。



・予選

レースウィークに入ってからコロナの影響による大きな変更点があり、特別スポーツ走行ではセットアップに集中することとなりました。迎えた予選は、40分の1回のみということでスポーツ走行から得られたデータやライダー感触から、セットアップの方向性を決めて臨みました。予選開始序盤では、良い手ごたえがありセッション中盤に再調整を行い、セッション終盤に新品タイヤを投入しライダーがタイムアタック、目標の1分52秒台には届きませんでしたが、1分53秒1により15番グリッドを獲得し予選を通過することが出来ました。



・レース1

予選終了後、午後は決勝レース1です。予選の手応えを基に決勝レースへ向けて微調整を行いレース1に臨みました。レース序盤、15位スタートから5周目には12位に上昇更にプッシュし上位を追走しましたが、9周目にオーバーランしたため15位に後退してしまいました。しかし、そこから巻き返し2台をパス、13位フィニッシュすることが出来ました。



・レース2

レース2は、レース前に降雨があるなど難しいコンディションとなりました。レインタイヤやインターミディエイトタイヤなどを用意して雨に備えましたが、路面が乾いていたためスリックタイヤでレーススタートしました。15位スタートから、順調に周回を重ねて上位陣の脱落もあり19周目には13位にポジションアップしました。しかし、突然の降雨があり全車がスリックタイヤを選択していたことから競技の続行は危険と判断され20周目にレースは赤旗終了、最終順位は12位となりました。



・ライダー 東村 伊佐三選手コメント

久しぶりの全日本選手権 JSB1000 クラスに出場する事になりライダーとして慌ただしくメンタルや身体トレーニングに取り組んで少しでも良い結果を目指せるように頑張りました。

チームも同様に全日本選手権 JSB フル参戦1年目！レースに必要な機材や備品等の準備マシンのセットアップを精力的にみんなの力を合わせて頑張った挑戦でした！

レース1レース2共に、予選までに少しずつマシンセッティングも良い方向に進んで挑めましたが、更なる順位アップを目指すには、まだまだ課題がいっぱい有と感じました。

次のレースに向けてライダーとしても更に進化できるよう頑張ります！

応援していただいた皆さんありがとうございました。第2戦鈴鹿 2&4 スポンサーの皆さんやサポートしていただいている皆さんの力を集結して！

【チーム長野】一丸となり頑張ります！



・Team 監督 武居 えみコメント

チーム史上初の全日本フル参戦の初戦。

足りないものだらけの当チームの状態では、かなり苦勞するだろうと覚悟はしていました。

実際に予想以上に苦しいレースウィークとなりましたが、各々が「今」できる精一杯でなんとかウィークを戦い抜くことができました。

マシンもまだ熟成段階ということもあり、苦しい戦いになるとは覚悟していましたが、実際にライダーには苦勞をかける状況となってしまいました。

そんな中でも、ライダーは2戦ともに完走、ポイントを取ってくれました。

また、次のレースに向けた課題もはっきり見える状態にしてくれました。

マシンとチームに足りないものが明確になった今。

次戦までに対策をし、きっちりとライダーの頑張りにこたえられるようなレースをしたいと考えます。

私は監督として、そのための道筋作りとチームの基盤強化に全力を注いでいこうと思います。

今後も応援をよろしくお願いいたします。

